

# ◎旧朝香宮邸の歴史を訪ねて

連載 ◆ 第19回 / 庭園と小さな動物たち — 旧宮家のプライベート・フィルムから

Residence of Prince Asaka 1933—



図1

庭園美術館の室内は、72年前に朝香宮邸として建てられた際の装飾や照明器具などがそのままの状態に残されています。しかし残念ながら庭園は往時の姿を正確に留めていません。今回は1933(昭和8)年の竣工時に庭園の様子がどのようなか、旧宮家に残されていた16ミリのプライベート・フィルムをもとに述べてみたいと思います。

白黒のサイレント・フィルムを見ると、宮邸がいかに広大な敷地のなかに建てられていたかを実感することができます(図1)。当時は庭園の境界線が現在の首都高速2号線の辺りにまでおよび、茶室「光華」\*1の他にも、宮内省の職員官舎や、孔雀小舎(小屋)、鶏小舎、盆栽置場、テニス・コートなどが、およそ1万坪(35,000m<sup>2</sup>)の敷地内に配されていました。茶室の前の池は今よりも広く、清流のように澄んだ水が満々と湛えられ、暑い季節のときなど、親類のお子さまたちが「たらい」に乗って、お付きの人と一緒に水遊びに興じられることもあったようです(そんな楽しげな様子もフィルムに収められています)。

当時の庭園の植栽は『朝香宮邸新築工事録』によりその一端が伺えます。赤松やモッコク、ツツジなどに加え、シャリンバイ、伽羅、カイドウ、コデマリ、ボケ、山椿、ホンツゲなど、40種類近くの植物

が一度に購入されている記録\*2からは、作庭に対する強いこだわりが感じられます。建物と同様、造園に関しても宮内省内匠寮が全体のプランを手掛けていました\*3。

誰がカメラを回していたのかは不明ですが、興味深い宮家旧蔵のフィルムは、庭園で遊ぶ動物たちの様子をも捉えています。なかでも求愛行動を

取って、大きな美しい羽を広げる白孔雀の姿は圧巻です(図2)。ドイツのハーゲンバック動物園から贈られたつがいから繁殖した孔雀は、昼間は外で放し飼いにされ、屋上にまで飛び上がることがあったといわれています\*4。鳩彦殿下の意向によって、宮家では他にも、鶏、伝書鳩、鶴、十姉妹、セキセイインコ、文鳥、カナリア、チンチラウサギ、シェパード、セッター、日本テリア、鯉、熱帯魚など、実に数多くの動物たちが飼われていました\*5。

現在、当館の建物と庭園は、都心では稀にみる憩いの空間として、訪れる人々を魅了しています。そして往時の宮邸の記録からは、淡い夢のようなその典雅な佇まいを垣間見ることができるのです。(中原)



図2



図3

図1. 朝香宮家旧蔵の16ミリフィルムより 撮影年不詳 東京都庭園美術館蔵

図2. 同上

図3. 庭園に咲く花。当館のホームページでは庭園の開花状況を、ほぼリアルタイムでご覧いただくことができます。アクセスは<http://www.teien-art-museum.ne.jp>(庭園フォトギャラリー)へ。

\*1. 10月1日の都民の日、茶室「光華」を特別公開します。お茶と菓子を300円でご提供いたします(整理券の配布時間:10時~50名、13時30分~50名)。

\*2. 「朝香宮邸新築工事二件付庭園植栽用庭樹購入注文書」、「朝香宮邸新築工事録」第7巻、1933年、宮内庁書陵部蔵。

\*3. 宮内省内匠寮は、宮内省所轄の建築、造園を司る設計集団として、当時100名ほどの優秀な人材を擁していました。朝香宮邸の造園責任者として、「中嶋兎三郎」という人の名前が「新築工事録」に残されています。

\*4. 社団法人露会館「東京都庭園美術館 旧朝香宮邸をたずねて」(非売品)、2001年、p.57。

\*5. 同上、p.52。

◎朝香宮ゆかりの庭園を巡るツアー

当館の庭園と茶室「光華」を学芸員の解説でご案内します。旧宮邸の歴史と魅力をじっくりお楽しみください。

日時: 第1回/9月29日(木)  
①10時~11時 ②15時~16時  
第2回/10月22日(土)  
①10時~11時 ②15時~16時  
料金: 1,200円(「庭園植物記」展の入館料、ツアー終了後の珈琲代を含みます。)

申込み方法: 往復葉書に氏名、住所、電話番号、ご希望の日時をご記入のうえ、庭園美術館までお申し込みください(1枚につき2名まで申込み可)。締め切りはそれぞれ9月15日、10月8日まで。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます(各回定員30名)。